

# げんきプラス特別号

2021年8月 北星高校 保健室

7月15日(木)総合的な探究の時間(健康学習①)において、「いのちの授業—

在宅ケアの現場からみつめる生と死」というテーマで、医療法人SIRIUS いしが在宅

ケアクリニック 理事長・院長 石賀 丈士先生による講演会を行いました。

在宅ケアや看取りなどについて正しい知識を学ぶとともに、生と死に向き合う先生

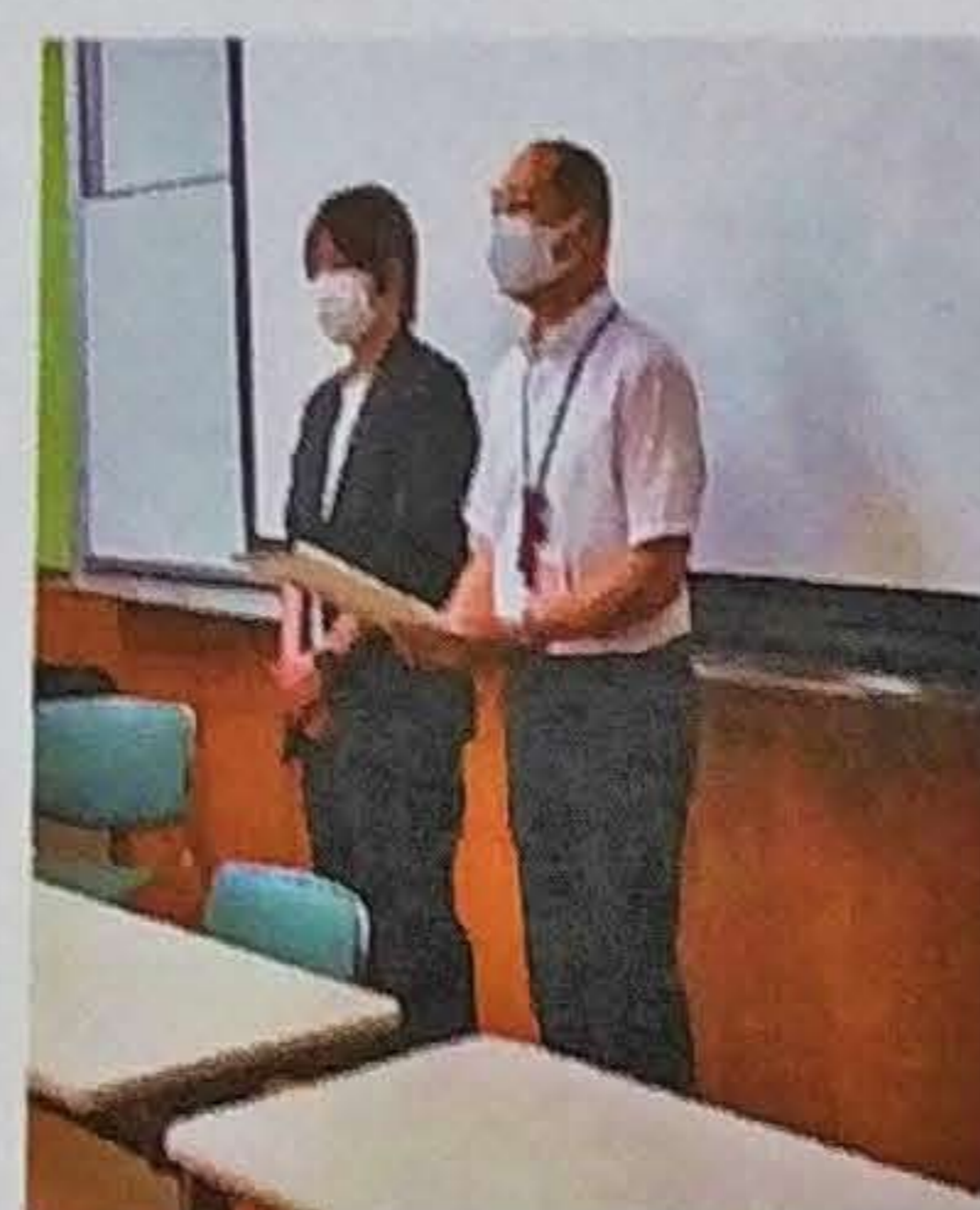
の豊富な体験を通して、いのちの大切さ、尊さに気づき、自分自身の生き方につ

て考えを深める機会になったと思います。

夢ノートや講演会アンケートの結果と感想を一部ご紹介します。

☆【夢ノートによる学びの満足度】—90%の人が「満足」と答えました。

	A 大変おもしろく興味を持って満足	B おもしろく興味を持った	C 特に何とも思わなかった	D あんまりおもしろくなかった	E まったく興味持てなかった	合計
午前部	44	16	1	0	0	61
午後部	53	22	7	0	0	82
夜間部	23	12	8	2	1	46
合計	120	50	16	2	1	189
%	64%	26%	8%	1%	1%	100%



☆在宅ケアについて理解できましたか—98%の人が「理解できた」と答えました。

	1よく理解できた	2だいたいできた	3あまりできなかった	4できなかった	合計
午前部	35	31	0	1	67
午後部	42	45	0	0	87
夜間部	21	26	1	1	49
合計	98	102	1	2	203
%	48%	50%	1%	1%	



図書室にあります。

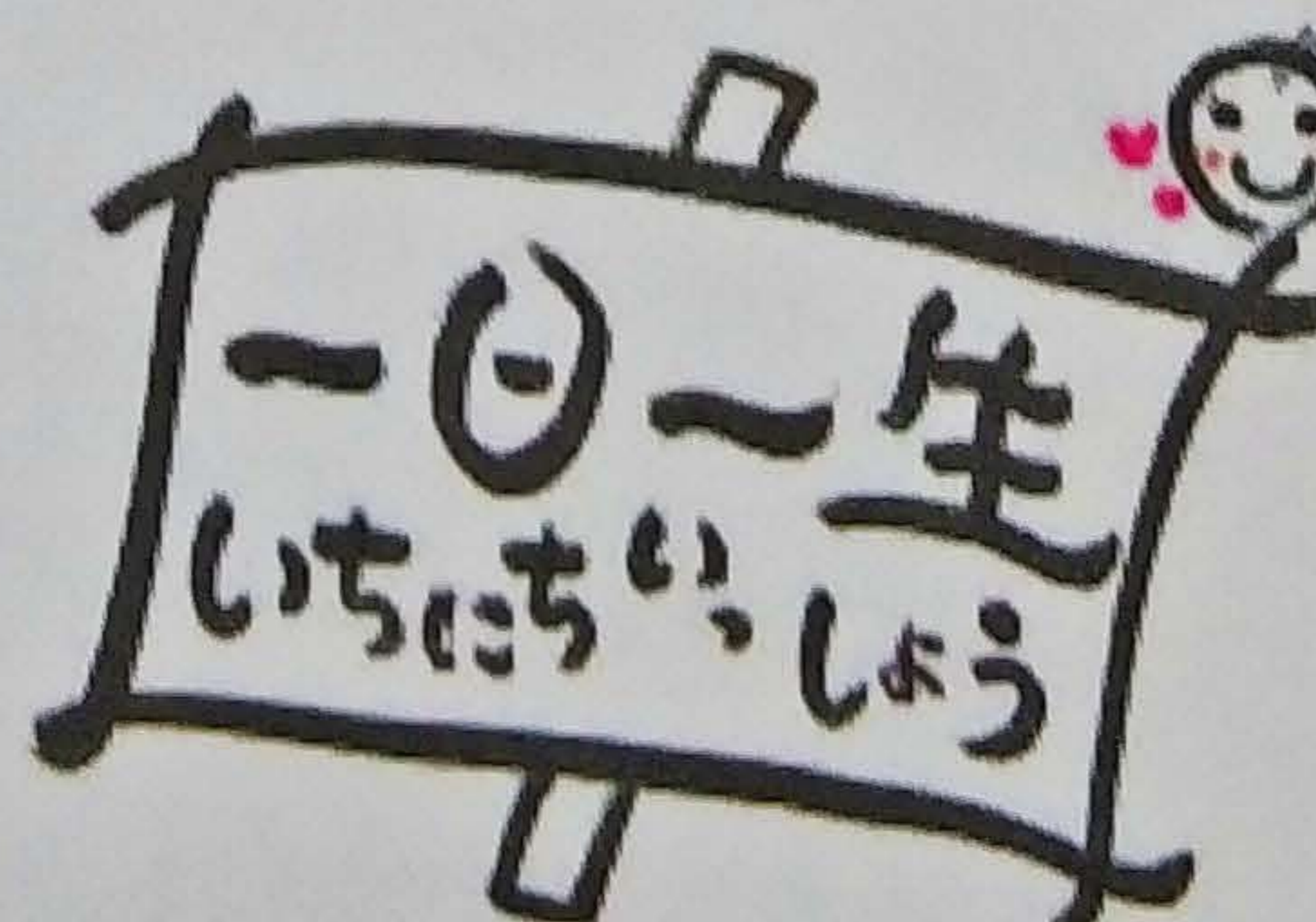
## ★学んだことや感じたことは何ですか？

- 病院で無理矢理生かされるよりも、自然死の方が苦痛もなくおだやかに死ぬ。
- 在宅ケアは、家でケアをしながら最期の時を看取るということ。
- 死が近づくと、食べない、つじつまの合わない話、脳内麻薬が出る、下痢やおう吐など体の大掃除、発熱、不規則な呼吸など、「お別れのサイン」があること。
- 亡くなくても、言葉や思いは、心の中で生き続ける。
- 死を考えるより、毎日を悔いなく生きることが大切だと改めて思った。
- 亡くなる人が、過ごしたい場所、やりたい事を尊重できることが大切。
- 看取りを経験することによって、子どもは命を学んでいく。
- これから死を怖いものと考えずに、自然なものと思えそうです。
- 悲しい別れから別れのイベントへ、という言葉がとても響きました。
- 亡くなることは辛いことなのに、最期は笑顔になっているのが素敵です。
- 誰かの役に立つような仕事につきたい。



## ★今後どのように心がけたり行動しようと思いますか。

- 今命があるのは当たり前じゃないから、毎日を楽しく生きようと思う。
- 「一日一生」この言葉を大事にして、心がけていこうと思う。
- 一日一日頑張って生きてゆきたい。
- 患者さんに寄り添う大切さ、人を笑顔にすること。
- 他人の命についても考え、自分に何が出来るのかを見つけたし。
- 闘病中の祖母と、もっと話とかして後悔のないようにしたい。
- 自分の親などが同じようになったら、僕も同じように優しく見守ってあげたい。
- 幸せの「オキシシン」を出していきたい。(小さな親切、感謝の言葉など)



いしが先生の好きな言葉

### いみ 意味

- ☆「一日が一生であり、明日はまた新しい人生」
- ☆「一日を大切に生きることが、一生を大切に生きることに繋がる」